

消費者から見たAIの利活用について



主婦連合会
木村たま代

主婦連合会とは

結成は1948年10月。

不良マッチ追放主婦大会をきっかけに設立した
全国組織の消費者団体です。

「おしゃもじとエプロン」をシンボルに誕生し、
日本の消費者運動をリードしてきました。

普通の生活者の声を政治にぶつけて
「台所から政治をよくしよう」

という願いがずっと運動を支えています。

消費者の権利の確立と誰もが暮らしやすい社会を
めざして運動を続けています。



消費者から見た現状のAI

■ AIは、いつの間にか私たちの生活に入り込んでいる

PC・スマホ・カードなどの端末から使用、家電に内蔵などでシステムとしてすでに稼働している

クラウドサービス(音声検索、写真分類・・・)、

スマートスピーカー、アイボ、

ボナンザ(将棋ソフト)、

スマートハウス、スマートシティ、

料理ロボット・・・など

■ AIは生活を豊かにする？ 脅かす？

AIのイメージは鉄腕アトムやドラえもん？

それともターミネーター？

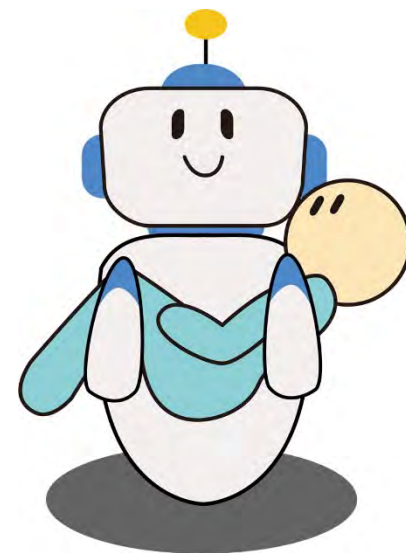


安全安心な生活のために

■ AIの利活用で、安全安心な生活を送りたい

■ 生活を便利で豊かに

- ・生活を楽しく
- ・人間を助ける
- ・省エネな暮らし
- ・人間ができないことをできるように



スマホのように使い勝手が良いものが登場すると、
あっという間に利用者に普及するのでは？

このままで大丈夫？



AIの利活用で懸念されること(1)

・・・事業者は、「より多く、より新しい情報を取得してビッグデータを活用」と言うけれど・・・

■ 個人情報取り扱い～ネットワーク化で管理される不安

- ・クラウドにアップされたデータはどうなるのか
- ・本当に匿名化されているのか？
- ・サービスを受けるためにデータを提供する仕組みが利用者に理解されるのか？
- ・利用時の作業ミス、情報漏えいや消去
- ・廃棄時にきちんと削除されるのか
 - 死後データはどうなるのか、死んでも自分の複製が残るのか

➡ プライバシーをどのように考えるのか

■ AIがコントロール不能になった場合の対処

➡ 想定外では済まされない



AIの利活用で懸念されること(2)

- 悪意のある操作
- 生活能力の低下
 - ・ AIがないと何もできなくなる
 - ・ 人間の仕事がなくなる
- 依存症、喪失感
- 画一的な対応(窓口対応など)
- 使い方が複雑でわからない
- AIの不完全性による事故、不都合
- 利用には電気が必要、電磁波への懸念
- 価格・購入契約
- メンテナンス、廃棄時の取り扱い ……など

➡ ITの問題点と酷似しているものが多い



AIを利活用するために必要なこと(1)

- 個人情報適切な管理、プライバシーを守る
- データ収集、管理の明確化
 - ・著作権法の改革、事故情報の活用
 - ・利用者の同意方法の適正化
- 省エネ・廃棄時の対応の明確化
 - ・エネルギー使用による環境負荷
 - ・データの消去、資源回収、再生
- 不測の事態への対応(コントロール不能、想定外)
- 自分の用途に応じて、適切な利用の管理
 - ・依存症への対策
 - ・悪用防止の施策
- 人間の生活を奪わない
 - ・AIの判断を過信しない
 - ・生活技術の低下への対応



AIを利活用するために必要なこと(2)

■消費者が利用するサービスを自分で選択可能

- ・わかりやすい使用方法
- ・使用料金、契約、購入形態の明確化
買取？リース？高額ローン？

■悪意あるものからの保護

- ・セキュリティやフィルタリング等

■簡単に修理できる仕組みやシステム

- ・コネクタ等の規格の標準化
- ・今まで使用してきた製品との整合性、
データ移行のしやすさ
- ・メンテナンス、修理、相談窓口の完備
- ・トラブルや事故が起こった場合の責任 ……など

➡ 今後、さまざまな角度から検討が必要！

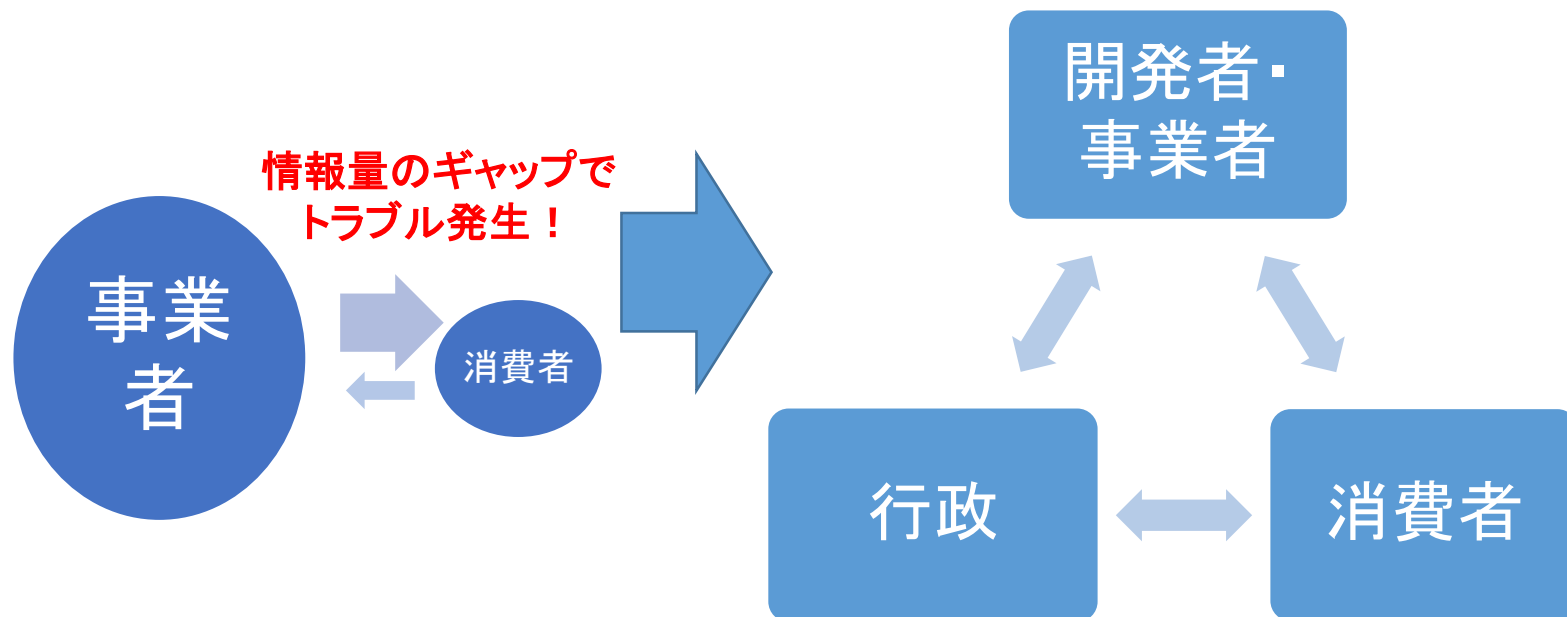


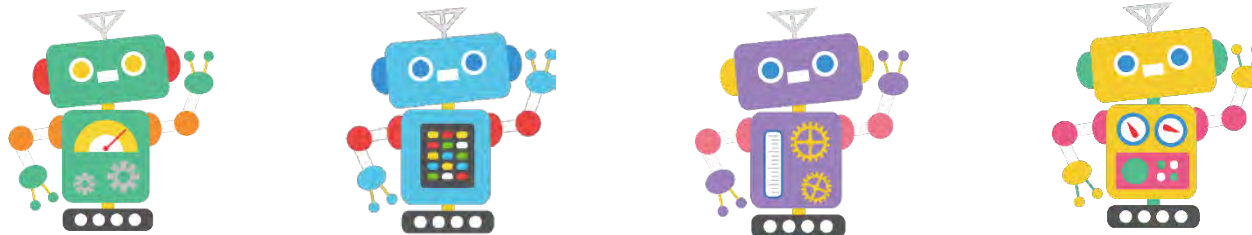
AIの利活用のための視点

■プライバシーを守る

■開発者・事業者、行政だけではなく、消費者の視点を取り入れ、**透明性**を持った検討が不可欠

消費者の意見を取り入れる場が必要





主婦連合会では、AIの利活用に関して今後出てくるさまざまな問題点に対して、消費者の視点から検討して意見していきます。

ご清聴ありがとうございました

